



# しんじょう中学校通信

～仲間とともに支えあい 豊かな学びと心を大切にする学校～

## 仲間の大切さを思う ～コロナ禍の中で～

3月になりました。本格的な「春」はもう少し先ですが、これからは「三寒四温」の毎日が続くように思います。コロナに関しては、新型コロナウイルスワクチンの国内接種が医療従事の方から始まっています。今後は、少しでも収束の動きが加速していくこと、学校においても「通常運転」の状況が戻ってくることを切に願っています。

ふりかえれば今年度は「コロナ禍」の中で、マスクをして手指消毒をし、密を避け「社会的な距離」をとることが生活の中のあらゆる場面で求められてきました。学校は、多くの生徒が集まり友達と関わり「仲間との学びや活動」の中で考えたり、気づいたりしながら個人や集団としての成長につなげていく「学びの場」であると考えています。さらに言えば、学校の生活は、それぞれの子どもたちにとって安心感や所属感が生まれる場でもあります。今年度のコロナ禍での生活は、逆にそのことの大切さを強く意識させてくれる機会ともなりました。

仲間の大切さって何だろう？と考えるとき、まずは「一人ではとてもできないことでも、仲間と一緒に達成できる」ということだと思います。仲間との協力や分担を通しての取り組みは、大きな力となり、自分のいる環境や集団をより良いものに変えていく力を内包していると思います。このことは学校だけでなく、会社や組織の中での取り組みでも同じことが言えます。

また、仲間がいれば「助け合い励ましあう」ことが出来ます。一人ではどうしようもないことでも、仲間がいれば助けてもらうことが出来ますし、逆に助けてあげることが出来ます。自分が誰かの役に立つことの喜びは、助けてもらえた嬉しさとはまた別次元のプラスの感情ではないかと思います。

さらに、仲間がいれば「切磋琢磨すること」が可能です。誰かの真剣さは必ず仲間の誰かに伝わります。「あの人があんなに努力しているのなら私も…」と思うようなことはないでしょうか？ また、そのようなことが自分の成長につながったと思えることはなかったでしょうか？ そして、できれば自分自身も誰かにとってそういう存在でありたいと思ったことはなかったでしょうか？

コロナ禍という状況の中で、あらためて「仲間の大切さ」を考えさせられる生活が続いています。これからのことについては、まだはっきりとしたことは言えない今の状況ですが、仲間を大切にする気持ちのベースにあるものはいつも相手を思いやれる想像力だと思っています。 ～その先の笑顔のために～  
近づいているであろう“春”を待ちたいと思います。

校長 伊庭 靖二



## 「配膳室増築工事」について 2

2月中旬以降、学校給食開始(次年度3学期スタート)のための給食配膳室工事が本格的に始まっています。工事の工期については次年度の1学期末まで継続ですが、この工事に併せて教室棟北側の樹木伐採が行われ、自転車駐輪場と部活動のための部室が新しくなります。



↑ 樹木伐採工事の様子



↑ テニスコート横に設置された仮部室

## 「わくわく新堂教室」の様子から。 …2月18日(木)

わくわく新堂教室は、定期試験の前に実施している新堂中独自の伝統的な取り組みです。先輩が後輩を教えるという“学習の場”で、教える方も教えられる方も自主的に集まってくれた生徒です。今後も、このよき取り組みが新中の伝統として継続されていくことを望みます。



## ◇◇◇◇◇保護者の皆様へ◇◇◇◇◇

### 卒業式・入学式のガイドラインについて(コロナウイルス感染症対策として)

3月13日(土)に第41回卒業式を予定しておりますが、草津市が示しているガイドラインに沿った形での卒業式を挙げていたします。式には在校生、来賓の方は出席せず、卒業生とその保護者(2名まで)、教職員のみでの実施となります。また4月9日の入学式についても同様に、入学生とその保護者(2名まで)、教職員のみでの挙行を考えています。ご理解いただきますよう重ねてお願いいたします。